

## ウズベク語の過去形動詞＋処格を用いた条件用法

日高 晋介  
(東京外国語大学大学院)

キーワード：ウズベク語，過去形動詞，条件

### 1. はじめに

本稿はウズベク語の過去形動詞＋処格 *-gan-da* の条件用法について、テキスト調査とエリシテーション調査を用いて、実際にどのように用いられているのかを検証する。先行研究によれば、*-gan-da* は時間節を表す用法と条件を表す用法を持つという。*-gan-da* を用いた条件用法について、先行研究間 (Kononov 1960: 413-5, Bodrogligeti 2003: 1249-54) で記述の齟齬が見られる。果たしてどちらの記述が現実に即しているのだろうか。

本稿の構成は次の通りである。2 節で先行研究の記述を参照し問題提起を行う。続く 3 節で調査と分析を行い、4 節で考察を述べる。最後に 5 節で本稿のまとめを述べる。

本稿の例文番号、グロス、日本語訳はことわりのない限り筆者による。なお、ウズベク語の表記は、先行研究の表記法に関わらず、ラテン文字正書法に統一する。

### 2. 先行研究

2.1 節で時間節について、2.2 節で条件表現について、それぞれ先行研究の記述を参照する。

#### 2.1. 時間節

Kononov (1960: 378) は、時を表す拡張状況語 (Развернутое обстоятельство) として、*-gan-da*, 動名詞＋処格 *-(i)sh-da* を挙げている (それぞれ (1) と (2) を参照されたい)。Bodrogligeti (2003: 601-606) は *-gan-da* と、現在進行形動詞＋処格 *-yotgan-da* の例 (3) を挙げている。ただし、*-gan-da* 以外は条件用法を持たない (2.2 節で *-gan-da* の条件用法について述べる)。

(1) *Lekin maktab-dan qayt-ish-im-da, Saydakbar o'z xat-i-ning*  
but school-ABL return-VN-1SG.POSS-LOC NAME REFL letter-3SG.POSS-GEN

*natija-si va javob-i-ni so'ra-gan-i-da, haligi vokea-ni*  
result-3SG.POSS and answer-3SG.POSS-ACC ask-PTCP.PAST-3SG.POSS-LOC that event-ACC

*un-ga ayt-ib ber-di-m.*  
3sg-DAT say-CVB give-PAST-1SG

「しかし、私が学校から帰る時に、サイドアクバルがその手紙の結果と返事を尋ねたら、その出来事を彼に言ってあげた。」 (Kononov 1960: 378)

- (2) *U tur-gan-da, hech qanday hodisa bo'l-ma-di-ø.*  
3SG stand-PTCP.PAST-LOC never how event be-NEG-PAST-3SG

「彼がいた時に、どんな出来事も起こらなかった。」(Kononov 1960: 378)

- (3) *Ko'cha-da o't-ayotgan-im-da meni mashina ur-ib ket-gan-ø*  
street-LOC pass-PTCP.PROG-1SG.POSS-LOC 1SG.ACC car hit-CVB leave-PRF-3SG

「私が通りを渡っている時に (lit. 通りで通っている時)、私を車がはねていった。」

(Bodrogligeti 2003: 605)

Bodrogligeti (2003: 601) によれば、*-gan-da* による副動詞<sup>1</sup>は時・条件・譲歩を表す節で用いられる、としている。ただし、本稿では、譲歩を表す節については取り扱わない。

## 2.2. 条件表現

ウズベク語で条件を表す形式としては、条件形 *-sa* と過去形動詞＋処格 *-gan-da* が挙げられよう。*-gan-da* は、前節で示したように時間節も成す。

先行研究 (Kononov 1960: 413-5, Bodrogligeti 2003: 1249-54) は、ウズベク語の条件文を次の三つに分類する：1. 実現条件、2. 非実現条件、3. 仮定条件。条件形 *-sa* はこれらすべてをカバーする。次に、それぞれの定義と具体例を挙げる。まず実現条件の記述を参照する。Kononov (1960: 413) は「(過去、現在、未来で) 完全に可能で、現実だと考えられる条件節からなる」と述べ、*-gan-da* を用いるとも述べている。しかし、*-gan-da* を用いた例を挙げていない。これに対して、Bodrogligeti (2003: 1250) は「条件が満たされるとすぐに、主節の動作が起こる」と述べているが、*-gan-da* を用いるという記述はない。*-gan-da* を用いた例がないため、条件形 *-sa* の例 (4) を挙げる。

- (4) *Hurmat qil-sa-ng, hurmat ko'r-a-san.*  
respect do-COND-2SG respect see-NPST-2SG

「君が尊敬すると、尊敬される (lit. 尊敬を見る)。」(Kononov 1960: 413)

非実現条件については、Kononov (1960: 414) は「実行されなかった、もしくは実行されなかったかもしれない条件節から成る」と述べ、Bodrogligeti (2003: 1253) は「実現されなかった条件」を表し、「ゆえに主節の動作は起こらなかった」と述べる。この場合、Kononov (1960: 414) は *-gan-da+edi* を用いると述べているが (5)、Bodrogligeti (2003: 1253-54) は *edi* が後続しない *-gan-da* のみを用いる例 (6) も挙げている。

<sup>1</sup> Bodrogligeti (2003: 601, 605) は *-gan-da* と *-yotgan-da* をそれぞれ副動詞 (*gerund* (verbal adverb)) とみなす。筆者が判断するに、これらは主格主語しか許さないという点からこのように述べているのだろう。形動詞が名詞節述語および連体修飾節として用いられる場合、属格主語も許す場合がある。一方、副動詞は属格主語を取らない。

- (5) *Urush bo 'l-ma-gan-da edi-ø, ko 'p joy-lar-ni ko 'r-ar edi-k.*  
 war be-NEG-PTCP.PAST-LOC PAST-3SG many place-PL-ACC see-PTCP.FUT PAST-1PL  
 「戦争じゃなかったら、私たちは多くの場所を見ただろう。」  
 (Kononov 1960: 414, Bodrogligeti 2003: 1254)

- (6) *Mening siz-ga munosabat-im yomon bo 'l-gan-da bun=day*  
 1SG.GEN 2PL-DAT relationship-1SG.POSS bad be-PTCP.PAST-LOC this=like

*gplash-mas=di-m.*

talk-PTCP.FUT=PAST-1SG

「あなたとの関係が悪かったら (lit. 私のあなたへの関係が悪かったら)、このように話さないだろう。」 (Bodrogligeti 2003: 1254)

仮定条件について、Kononov (1960: 415) は「現実に沿うが、動作の実現の、仮定・可能性・必要性あるいは不可能性・非実現性のニュアンスを複雑に持つ条件節からなる」と述べる。しかし、*-gan-da* の例を挙げておらず、挙げているのは *-sa* の例のみ (7) である。それに対して Bodrogligeti (2003: 1252-1253) は「実行されるかもしれない、あるいは実行されないかもしれない条件である」と述べ、*-gan-da* の例 (8) も挙げる。

- (7) *Lekin fursat bo 'l-sa-ø, sizniki-ga maxsus kel-a-man.*  
 but time be-COND-3SG your.house-DAT specially come-NPST-1SG  
 「しかし、時間があれば、あなたのところに特別に来ます。」 (Kononov 1960: 415)

- (8) *Agar urush bo 'l-ma-gan-da, u kishi partiya-ga qayta tiklan-ar=di-ø.*  
 if war be-NEG-PTCP.PAST-LOC that person party-DAT again restore-PTCP.FUT=PAST-3SG  
 「もし戦争がなかったら、その人は党にまた戻っただろう。」 (Bodrogligeti 2003: 1253)

ただし、筆者は (8) の条件節が仮定条件を表しているかどうかについては再考を要すると考える。もし文脈によって発話時までには戦争が実際に起きたことが明らかであれば、(8) は非実現条件とみなされるだろう。

以上、Kononov (1960: 413-5) と Bodrogligeti (2003: 1249-54) それぞれの記述と用例を参照した。しかし、これら二つの先行研究の間で、時間節 *-gan-da* の条件節用法について齟齬がある。以下の表 1 を参照されたい。

表 1: 時間節 *-gan-da* の条件節用法についての記述

	Kononov (1960: 412-5)	Bodrogligeti (2003: 1249-54)
実現条件	+	-
非実現条件	+	+
仮定条件	?	+

Kononov (1960: 413-5) は実現条件と非実現条件で用いられるとする。一方、Bodrogligeti (2003: 1249-54) は非実現条件と仮定条件で用いられると述べている。ただし、仮定条件として挙げられている例 (8) は仮定条件であるかどうかは再考を要する。

では、実際に *-gan-da* はどのような条件を表すのだろうか。本稿では、テキスト調査とエリシテーション調査から *-gan-da* の条件用法について分析・考察する。

### 3. 調査と分析

3.1 節でテキスト調査について、3.2 節でエリシテーション調査について、それぞれ述べる。

#### 3.1. テキスト調査

まず、テキスト調査の概要を述べる。インターネットニュースサイト *Ozodlik radiosi* (<http://www.ozodlik.org>) から任意に選んだ 88 本の記事<sup>2</sup>、*Besh qiz va bir yigit*『五人の女の子と一人の若者』という小説<sup>3</sup>から成る形態素解析済みコーパスから、時間節 *-gan-da* を抽出する<sup>4</sup>。

次に、表 2 にコーパスにおける *-gan-da* の機能別分布を挙げる。なお、*-gan-da* は時間節を表す用法も持つ。ただし、実現条件との区別が難しいため、ここでは時間節と実現条件は区別せずに示す。

表 2: コーパスにおける *-gan-da* の用法別分布

仮定条件	0
非実現条件	3
実現条件／時間節	12
計	15

<sup>2</sup> 訳グロス付きテキスト 4KB 分のテキストのみの部分を、単語数 100、文字数 800 として計算する。そうすると、ニュースが 407KB で、単語数 約 1 万、文字数 約 8 万となる。これらの記事は 2015 年 7 月から 11 月、2016 年 1 月から 4 月まで記事 88 本を任意に選んだ。

<sup>3</sup> 全 48 ページ。単語数 約 42,000、文字数 約 44,800 (一ページあたり、単語数 1,500・文字数 1,600 で計算している)。脚注 2 と同様、書誌情報は稿末に挙げた調査資料を参照されたい。

<sup>4</sup> 秀丸エディタの `grep` 検索を用いる。正規表現 `ptcp.past[a-z,-1-3]*loc` を用いて検索した

以下、非実現条件と実現条件／時間節の例をそれぞれ挙げる。

非実現条件の場合、実際には条件節事態が生じていない。そのため、前後の文脈を見れば判断がしやすい。まず非実現条件を表す三例を以下に示す。(9) が載っている記事は、ママライムさんが自分の子供の学費を稼ぐためにロシアに出稼ぎしていることについて伝えている。そのため、発話時現在、ママライムさんがロシアにいることは明らかである。

- (9) *O'zbekiston-da bo'l-gan-im-da farzand-lar-im-ni*  
 Uzbekiston-LOC be-PTCP.PAST-1SG.POSS-LOC child-PL-1SG.POSS-ACC

*o'qi-t-ol-mas=di-m, — de-y-di Mamaraim aka.*  
 read-CAUS-POT-PTCP.FUT.NEG=PAST-1SG say-NPST-3SG NAME brother

「私がウズベキスタンにいたら、私の子供を勉強させられなかつたらろう、とママライムさんは言う。」(23\_08\_2014: 50)

(10) と (11) は火事が起こった時のことを述べている。これらの文より前の文脈で、火事が起きた時に、ボイノックという犬が主人公たちを起こしに来たことが描かれている。

- (10) *Ular-ning baxt-i-ga shamol bo'l-ma-di=ø, agar shamol bo'l-gan-da*  
 3PL-GEN lucky-3SG.POSS-DAT wind be-NEG-PAST=3SG if wind be-PTCP.PAST-LOC

*edi-ø, qo'l-lar-i-dan hech nima kel-mas=di-ø,*  
 PAST-3SG hand-PL-3.POSS-ABL no what come-PTCP.FUT=PAST-3SG

「彼女らが幸運なのは、風がなかったことである (lit. 彼女らの幸福に風がなかった)。もし風があつたら、何もできなかつたらろう、」(BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 3298)

- (11) *Ashur aka, Bo'ynoq bizlar-ni hur-ib chorla-ma-gan-i-da,*  
 NAME brother NAME 1PL-ACC burk-CVB invite-NEG-PTCP.PAST-3SG.POSS-LOC

*don-dan ayril-gan edi-k.*  
 crop-ABL separate-PTCP.PAST PAST-1PL

「アシュルさん、ボイノックが私たちを吠えて呼ばなかつたら、我々は穀物から離れていた。」(BeshQiz\_va\_BirYigit: 3349)

次に、時間節／実現条件の場合について例を見ていく。先にも述べたが、これらの区別は難しい。前後の文脈から *-gan-da* 節のアクチュアルの度合いが比較的高い場合、時間節であると判断できる。例えば、(12) では、主節が過去形であり、実際に起きたことについて述べている。そのため、この *-gan-da* 節は、時間節であると判断できる。

- (12) *Rais endi hayda-y-man de-gan-da, mashina-dagi telefon jiringla-b*  
leader now drive-NPST-1SG say-PTCP.PAST-LOC car-ADJLZ telephon sound-CVB

*qol-di-ø.*

remain-PAST-3SG

「会長が『今運転する』と言った時に、車にある電話が (突然) 鳴り出した。」

(BeshQiz\_va\_BirYigit: 235)

しかし、(13) のように、上位節が実現するかどうかわからない事態を表しているため、*-gan-da* 節が時間的な関係を表しているとも実現条件を表しているとも言い切れない例もある。

- (13) *Bu gal ham raqib-i-ning chot-i-ga tep-ib, u bukchay-ib*  
this time also rival-3.POSS-GEN groin-3.POSS-DAT kick-CVB 3SG bend-CVB

*qol-gan-i-da orqa-si-ga ustma+ust zarb ber-ish uchun...*

remain-PTCP.PAST-3SG.POSS-LOC back-3.POSS-DAT RDP+upper power give-VN for

「この時も、敵の股を蹴って、その人が屈んでしまったら／屈んでしまった時に背中に何回も打撃を加えようと、…」 (BeshQiz\_va\_BirYigit: 4112)

以上の例から判断するに、従属節事態が起きてから主節事態が起きるという時間的前後関係があり、かつ従属節事態が生じると主節事態も生じることが想定される場合、従属節に *-gan-da* が用いられる。したがって、仮定条件の場合は *-gan-da* が用いられないと推測できよう。次節では以上の仮説を検証するために、エリシテーション調査を行う。

### 3.2. エリシテーション調査

本節における調査では、まず、風間 (2016) 中にある日本語の条件文 13 例 (風間 2016: 39-40; (11)-(23)) をウズベク語母語話者<sup>5</sup>に訳してもらおう (したがって、本節にある例の日本語訳は風間 2016: 39-40 を引用している)。その後、必要に応じて、条件節に表れた形態素を入れ替えたり、再度日本語文を作りウズベク語に訳してもらったりした。

まず、*-gan-da* が用いられない例を挙げる。(14) は、主節事態が起こるかどうかは発話時時点では不明である。(15) は従属節事態が主節事態よりも後に起こる文である。

- (14) *Ertaga yomg'ir yog'sa-ø, men u yer-ga bor-ma-y-man.*  
tomorrow rain fall-COND-3SG 1SG that place-DAT go-NEG-NPST-1SG

「明日雨が降ったら、私はそこに行かない。」

<sup>5</sup> 男性、1991 年生、ナマンガン州出身。

(15) *Agar uy-ga kel-adigan bo'l-sa-ng, qo'ng'iroq qil-gach kel-gin.*

if house-DAT come-PTCP.NPST be-COND-2SG bell do-CVB come-IMP.2SG

「家に来るなら、電話をしてから来てください。」

次に、主節の時制によって *-gan-da* 節が許されるかどうか異なる例を参照する。主節が過去形である場合 ((16) a)、従属節に *-gan-da* が用いられる (条件形 *-sa* は用いられない)。しかし、主節が非過去形である場合 ((16) b)、従属節に *-gan-da* は用いられない。(16) b の場合、発話時時点で主節事態が起こるかどうかは不明であるためであろう。つまり、この文は仮定条件を表している。

(16) a. *Deraza-ni och-gan-im-da sovuq shamol kir-ib kel-di-ø.*

window-ACC open-PTCP.PAST-1SG.POSS-LOC cold wind enter-CVB come-PAST-3SG

「窓を開けると、冷たい風が入ってきた。」

b. *Deraza-ni och-sa-ng, sovuq shamol kir-ib kel-a-di.*

window-ACC open-COND-2SG cold wind enter-CVB come-NPST-3SG

*Shu-ning uchun och-ma.*

that-GEN for open-NEG

「窓を開けると、冷たい風が入ってくる。だから (窓を) 開けるな。」

さらに、主節におけるアクチュアルの度合いが低くても、*-gan-da* は許容されない (アクチュアルの度合いが高い例、つまり過去の一回性の動作を表す例は (16) a を参照されたい)。例えば、恒常的な条件 (17)、一般的な真理 (18) では<sup>6</sup>、従属節に *-gan-da* は用いられない。これらの例も (14), (16) b と同様、主節事態が起こるかどうかは発話時時点では不明である。

(17) *Bu yer-da yoz bo'l-sa-ø yomg'ir ko'p yog'-a-di.*

this place-LOC summer be-COND-3SG rain many fall-NPST-3SG

「ここでは夏になると、よく雨が降ります。」

(18) *Bir-ga bir-ni qo'sh-sa-ø, ikki bo'l-a-di.*

one-DAT one-ACC add-COND-3SG two be-NPST-3SG

「1 に 1 を足せば、2 になる」

<sup>6</sup> 風間 (2016: 39) は、0 と 0 の日本語で書かれた調査文をそれぞれ「恒常的な条件」と「一般的な真理」を表す文として挙げている。

以上より、以下二つの場合には *-gan-da* が用いられないと言えよう:

- ①主節事態が起こるかどうかが発話時時点では不明である: (14), (16) b, (17), (18)
- ②従属節事態が主節事態よりも後に起こる: (15)

したがって、*-gan-da* の用法は前節末に挙げた次の仮説に従っていると言える: 「従属節事態が起きてから主節事態が起きるといった時間的前後関係があり、かつ従属節事態が生じると主節事態も生じることが想定される場合、従属節に *-gan-da* が用いられる。」

#### 4. 考察

3 節では、テキスト調査で「従属節事態が起きてから主節事態が起きるといった時間的前後関係があり、かつ従属節事態が生じると主節事態も生じることが想定される場合、従属節に *-gan-da* が用いられる。」という仮説を提示し、インフォーマント調査でこの仮説を裏付けた。

ここで再度 2.2 節の表 1 に戻り、先行研究の記述とのすり合わせを行う。*-gan-da* について、Kononov (1960: 413-5) は実現条件と非実現条件で用いられると述べている。一方、Bodrogligeti (2003: 1249-54) は非実現条件と仮定条件で用いられると述べている。本稿で得られた上記の分析に合うのは、Kononov (1960: 413-5) の記述である。ただし、筆者が示した上記の結論は時間節における *-gan-da* の機能そのものである。したがって、筆者は、*-gan-da* はそもそも時間節として用いられると考える。そう考えれば、Bodrogligeti (2003: 1249-54) が *-gan-da* の実現条件を表す用法について述べていないことにも合点がいく。

最後に、非実現条件について述べる (例は (9), (10) を参照されたい)。非実現条件の場合、主節・従属節両者の事態は実現しておらず上記の分析と合わない。ただし、この場合、現実世界では従属節および主節が表わす事態が実現されていないが、代替りの現実世界でそれが実現されることを想定しているのだろう<sup>7</sup>。そのため、非現実条件では、事態の実現度合いが高いことを示す形式、つまり *-gan-da* が用いられる。

#### 5. おわりに

以下に本稿の目的と分析・考察のまとめを述べる。

ウズベク語の過去形動詞＋処格 *-gan-da* を用いた条件表現について、先行研究間 (Kononov 1960: 413-5, Bodrogligeti 2003: 1249-54) で記述の齟齬が見られた (2.2 節の表 1)。本稿はテキスト調査とエリシテーション調査を用いて、実際にどのように *-gan-da* が用いられているのかを検証した (以上、3 節)。その結果、「従属節事態が起きてから主節事態が起きるといった時間的前後関係があり、かつ従属節事態が生じると主節事態も生じることが

<sup>7</sup> 条件についての記述ではないが、次の補文節に関する Noonan (2007: 127) が参考になる。Noonan (2007: 127) は、ふりを表す補文節述語 (「～するふりをする」の「～する」の部分) に *irrealis* を表す接続法ではなく、*realis* を表す直説法が現れるロシア語の例を挙げている。その理由として、「ふりを表す補文が代替りの現実を立て、補文が代替りの現実の中で主張 (*assertion*) を構成するという事実由来」と述べる。



想定される場合、従属節に *-gan-da* が用いられる。」という結論を導き出した。これは、Kononov (1960: 413-5) の記述に合う。さらに、非実現条件の場合についても次のような考察を述べた。現実世界では従属節および主節が表わす事態が実現されていないが、代わりに現実世界でそれが実現されることを想定している。そのため、非現実条件では、事態の実現度合いが高いことを示す形式、つまり *-gan-da* が用いられる (以上、4 節)。

## 略号一覧

-		接辞境界	LOC	locative	位置格
=		接語境界	NAME	proper noun	固有名詞
+		複合語境界	NEG	negative	否定
1, 2, 3		1, 2, 3 人称	NPST	non-past	非過去
ABL	ablative	奪格	PAST	past	過去
ACC	accusative	対格	PL	plural	複数
ADJLZ	adjectivalizer	形容詞	POSS	possessive	所有
CAUS	causative	使役	PROG	progressive	進行
COND	conditional	条件	PRF	perfective	現在完了
CVB	converb	副動詞	PTCP	participle	形動詞
DAT	dative	与格	REFL	reflexive	再帰
FUT	future	未来	SG	singular	単数
GEN	genitive	属格	VN	verbal noun	動名詞
IMP	imperative	命令			

## 参考文献

- Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.
- 風間伸次郎 (2016) 「[テーマ企画：特集 (連用的複文)] まえがき」『東京外国語大学語学研究所論集』20: 15-41.
- Kononov, A. N. (1960) *Grammatika sovremennogo Uzbekskogo literaturnogo iazyka*. [現代標準ウズベク語文法] Moskva, Leningrad: Izdatel'stvo akademii nauk SSSR.
- Noonan, Michael (2007) Complementation. Shopen, Timothy (ed.) *Language Typology and Syntactic Description Second edition. Volume II: Complex Constructions*. 52-150. Cambridge: Cambridge University Press.

## 調査資料

- Beknazarov, O'roz va Ismoil Yuldashev (2007) *Besh qiz va Bir yigit*. Toshkent: Cho'lpon nomidagi nashriyot-matbaa ijodiy uyi.
- Ozodlik radiosi* (<http://www.ozodlik.org>) [最終閲覧日: 2016/04/29]

The Conditional Expression Using the Past-Participle+Locative Case *-gan-da* in Uzbek

HIDAKA Shinsuke

(Tokyo University of Foreign Studies)

In this paper, I discuss a conditional expression using the past-participle+locative case *-gan-da* in Uzbek. Two previous studies differently described that conditional expression: one stated that *-gan-da* can express real and unreal conditions, while another reported that *-gan-da* can express unreal and potential conditions. Which description is correct?

This paper conducts two kinds of research: text-based research and elicitation research. Through this research, the present study investigates how *-gan-da* is actually used, and reveals the following results. The expression has a temporal anteroposterior relation; if an event described in a subordinate clause occurs, followed by an event in the main clause, and the speaker assumes both events happen, *-gan-da* is used in the subordinate clause. This result is a match for the description made by Kononov (1960: 413-5).

In addition, this paper also examines the case of unreal conditions. In the real world, both events in a subordinate clause and the main clause would not happen. However, in an alternative reality, it is assumed that those events happened. In that case, in the unreal condition, the form which has high actuality, that is, *-gan-da*, is chosen.